

課題情報シート

テーマ名 :	物流子会社の機能について				
担当指導員名 :	小池 慎介	実施年度 :	26 年度		
施設名 :	港湾職業能力開発短期大学校横浜校				
課程名 :	専門課程	訓練科名 :	物流情報科		
課題の区分 :	総合制作実習課題	学生数 :	1 人	時間 :	12 単位 (216h)

課題制作・開発のポイント

【開発（制作）のポイント】

製作者である学生本人も物流子会社に就職したところから「実態調査や文献調査」の面白さや発展性を理解するとともに、期限までに成果物を完成させることでスケジュール管理の重要性を習得できました。文献で調査するだけでなく、実際に企業等でヒアリングを行い、その結果を発表し、その事実を検証して論文をまとめました。

【参考文献】

- (1) < 物流の歩み 1950-2000 < 物流社史
- (2) よくわかる物流業界 2015 年 1 月 1 日 最新 4 版 日本実業出版社

【訓練（指導）のポイント】

メーカー・商社などがなぜ子会社として物流機能を別の会社に独立させたか、その代表的な企業についての設立に至る歴史的背景について調べ、その経営状況およびメリットデメリットについて考察します。これから会社で働くにあたり、その実態を把握しスムーズに溶け込むためのきっかけにすることができました。

学生自身は物流子会社に就職するにあたり、物流子会社とは何なのかを理解していませんでした。物流業者などの専門業者が多数いるなか、なぜ物流子会社に任すのか、なぜ自社の物流部門を切り離し自社の物流子会社にするのか、疑問に思っていました。

この総合制作を通して物流子会社の存在意義を改めて認識し、その必要性について理解できました。

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 港湾職業能力開発大学校横浜校
住所 : 〒231-0811 神奈川県横浜市中区本牧ふ頭 1 番地
電話番号 : 045-621-5999 (代表)
施設 Web アドレス : <http://www3.jeed.or.jp/kanagawa/college/>

課題制作・開発の「予稿」および「テーマ設定シート」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

物流子会社の機能について

1. はじめに

今回私は自身が物流子会社に就職するにあたり、物流子会社とは何なのかを理解していませんでした。物流業者などの専門業者が多数いるなか、なぜ物流子会社に任すのか、なぜ自社の物流部門を切り離し自社の物流子会社にするのか、疑問だらけであった。

この総合制作を通して物流子会社の存在意義を改めて理解し、その必要性について理解する。

2. 日本の物流子会社

わが国には、「物流子会社」という物流業者が存在している。多くの場合は、本業および関連分野にいろいろな子会社を設立して、系列グループを形成している。

一般に、子会社は親会社の賃金体系と異なり、安い賃金で雇用する事ができる。また、親会社本体で事業を行うよりコストの削減もできるなどのメリットがある。こうした子会社の一つとして、物流子会社がある。

物流子会社といっても、その業務内容は企業によって大きく異なる。

下記、物流子会社についての事例による分類を試みた。



図1 物流子会社の事例

●事例1 自社の物流のみ

従来は本社の中に物流部門があり、そこで物流センターの管理・運営、実際の輸送や配送の手配を行ってきた。この物流部門を切り離し、子会社化したのが物流子会社である。

いままでの本社の物流部門が単に別会社化しただけで、本社の出荷指示に従って、物流業者への配車管理や運賃支払いといった管理業務だけをしている企業である。

●事例2 他企業の物流子会社に業務委託

物流子会社のなかには、物流センターや配送センターの運営管理を独自に行い、情報システムを導入したり、自動化機器を導入したりして、物流センターのプロフェッショナルとして、親会社の物流効率化に貢献しているものもある。

●事例3 自社+他の企業の物流

親会社の社名を冠につけてはいるものの、親会社やその関連企業の業務だけをするのではなく、それ以外の他の企業の貨物も積極的に取り入れていこうとする物流子会社も存在している。

当然、物流専門の事業者と互角に渡り合える企業を目指している。こうした事業者は物流子会社とされているが、それ自体独立した立派な物流業者なのである。

さらに業務だけでなく資金の調達についても親会社からの援助なしでも自前で調達できる会社もある。

3. 親会社から自立した物流子会社へ

深刻な不況は、従来の物流業者のあり方を大きく変えた。不況に苦しむ親会社は、物流子会社に対してとにかくコスト削減を求めてくる。これまでは、グループ企業でもあり、本社からの天下り先でもあって大目にみられていたが、親会社はすでにそうした余裕をなくしている。

コスト削減ができないならば、自社の物流子会社を通さずに、より優秀な物流業者に委託することも辞さない。そうなれば、物流子会社の存在

そのものが否定されることになるのである。

さらに、2001年から国際会計基準が適用されて連結会計が中心になったため、親会社は物流子会社にも収益性を強く求めるようになった。そこで物流子会社は、親会社以外の企業へ積極的に業務拡大を行う必要性が強まってきている。つまり、甘えを残した物流子会社ではなく、親会社の物流効率化に貢献し、なおかつ自分で立派に稼ぐことができる物流子会社が求められている。

では次に物流子会社の中でも上場し、独立して業務を展開している「(株)H物流」、
「(株)K流通システム」を例に挙げ、
考えていきたいと思えます。

4. 独立した子会社の多彩な業務

4-1 株式会社<物流

「<物流」は、<の物流子会社である。
この<物流の前進の会社は

分離独立したが、<物流は本業に
経営資源を集中するため、2002年2月に
全株式を売却している。

の連結子会社を含む2014年3月期の
連結売上高は、6 円に達する。
6 を新たに連結することによって売上高が大幅に増加した。

主な事業は、国内物流業、国際物流事業、その他事業に分類される。国内物流事業は3888億円で全体の62.3%を占めている。業務の内容は、3PL(サードパーティー・ロジスティクス)であり、荷役企業の物流システムの構築、情報・在庫・受発注の管理、流通加工、物流センター運営などを行う。このほかにも一般貨物・重量品・美術品の輸送、工場・事務所などの大型移転作業、倉庫業、トランクサービスなど多彩だ。

H物流の売上高構成比(連結)

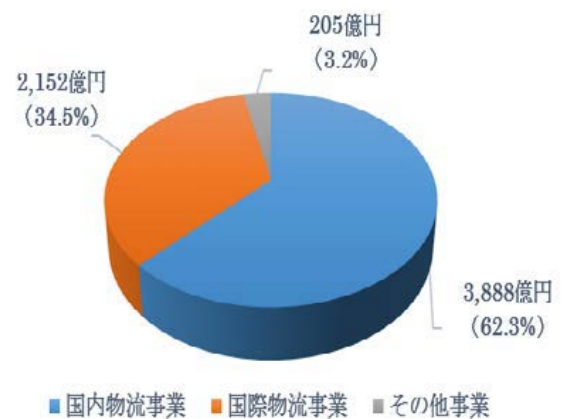


図2 H物流の売上高構成比図

4-2 株式会社?流通システム

「(株)?流通システム」は?
(株)の物流子会社である。

食品の「安全・安心」を支える高品位の物流サービスを実現するため、食品の特性に合わせて常温・定温・冷蔵・冷凍の4温度帯で品質・鮮度を守り抜く物流を実現しており業界をリードしている。

グループ会社・協力会社との強力なパートナーシップのもと、船舶・タンクローリーをはじめとする原料輸送サービスから、スーパー、外食チェーン、コンビニエンスストア向け店舗配送まで総合的に手掛けている。

5. おわりに

今回考察した、物流子会社は一般物流企業と比較される前に自らの存在意義を明確に提示できる力を付けなければなりません。今や人の『受け皿』と考えていては、全く競争力はない。

物流企業として生き残るには明確な物流システムが機能しなければ存在意義が問われてしまう。まずは物流会社としての強み弱みを見直し、今後の戦略を検討することが急務である。社内で危機感を共有したうえで、上記の生き残り策に取り組むことが肝要と考える。

参考文献

- ・H物流の歩み 1950-2000 H物流社史
- ・日本実業出版社 2015年1月1日 最新4版
よくわかる物流業界 齋藤 実[著]

課題実習「テーマ設定シート」

作成日： 9月 25日

科名： 物流情報科

教科の科目		実習テーマ名	
総合制作実習		物流子会社の機能について	
担当教員		担当学生	
○物流情報科 小池 慎介			
課題実習の技能・技術習得目標			
メーカー・商社などがなぜ会社として物流機能を独立させたか、そのメリット・デメリットについて考察します。			
実習テーマの設定背景・取組目標			
実習テーマの設定背景			
本人も物流子会社に就職したところから「実態調査や文献調査」の面白さや発展性を理解するとともに、期限までに成果物を完成させることでスケジュール管理の重要性を認識します。			
実習テーマの特徴・概要			
文献で調査するだけでなく、実際に企業等でヒアリングを行い、その結果を発表し、その事実を検証して論文をまとめます。			
No	取組目標		
①	設定したテーマで文献調査を行います。		
②	実際に企業等にヒアリングをして事実の確認を行います。		
③	文献調査とヒアリング結果とのすり合わせを行い事実の確認を行います。		
④	想定した仮説と異なり、問題点がある場合には、問題を分析し、その問題の解決に取り組みます。		
⑤	5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実現に努め、安全衛生活動を行います。		
⑥	実習の進捗状況や、発生した問題等については、担当教員へ報告します。		
⑦	副査の教員や他の学生とも質疑応答を行い自分の考え方をまとめます。		
⑧	指導教官の指導のもと報告書の作成を行います。第三者のチェックを行い研究の質を厳密に管理します。		
⑨	発表会を行い質疑応答に対応できる能力を養います。		
⑩	論文作成を通して、わかりやすい文章の書き方について習得します		